

# ALUMINIUM NEWS

アスカ工業株式会社アルミニウムニュース

第 737 号

2022年11月1日

発行

アスカ工業株式会社

〒444-0303

西尾市中畑町卯新田上28

2020年、21年とコロナ禍で開催が中断されていましたがアスカ・セミナーは、10月14日、西尾駅前の西尾コンベンションセンターに会場を移して盛大に開催されました。

天野卓社長の歓迎の挨拶に始まり、大ホールAにて稲嶋貴之氏のセミナー講演の後、隣室大ホールBに移動して、マスク飲食の限られた時間でしたが懇親会が催されました。

## 第 57 回アスカセミナー

# 中小企業のこれから、カーボンニュートラル への取り組み（入門編）

講師 中部電力ミライズ株式会社  
岡崎営業本部法人営業部  
部長 稲嶋 貴之 氏

### （1）脱炭素に関する社会動向

国際的な環境意識の高まりを受けて、政府や金融機関、投資家らが企業の環境経営を重要視するようになりました。企業でもパリ協定を契機に、気候変動に対応した経営戦略の開示や脱炭素に向けた目標設定などを通じ脱炭素経営に取り組む動きが進展しています。

こうした企業の取り組みは、自らの企業価値の向上につながる事が期待でき、先んじて脱炭素経営の取り組みを進めることにより、他社との差別化を図ることができ、新たな取引先やビジネスチャンスの獲得に結びつくものになっています。

#### 米国主催気候サミット後の主要国の削減目標

日本

- 2030年度に $\Delta 46\%$ （2013年比）
- 2050年にカーボンニュートラル達成

米国

- 2030年に $\Delta 50\sim\Delta 52\%$ （2005年比）
- 2050年にカーボンニュートラル達成

EU

- 2030年に少なくとも $\Delta 55\%$ （1990年比）
- 2050年にカーボンニュートラル達成

英国

- 2030年に $\Delta 68\%$ （1990年比）
- 2035年に $\Delta 78\%$ （1990年比）
- 2050年にカーボンニュートラル達成

カナダ

- 2030年に $\Delta 40\sim 45\%$ （2005年比）
- 2050年にカーボンニュートラル達成

中国

- 2030年までにGDP当たりCO2排出量で $\Delta 65\%$ （2005年比）
- 2026～2030年で石炭消費を段階的に削減
- 2060年にカーボンニュートラル達成

インド

- 2030年にGDP当たり排出量で $\Delta 33\sim\Delta 35\%$ （2005年比）
- 現時点で言及なし

ロシア

- 2030年に $\Delta 30\%$ （1990年比）
- 現時点で言及なし

各国が気候サミットに前後して従来目標の引き上げや新目標の設定を表明しました。世界の占めるGHG排出割合の高い新興国の中国、インド、ロシアからは、具体的な数値目標についての言及こそなかったが、中国の石炭消費の段階的削減への言及のように、各国が具体的方策を説明しました。

日本も2020年10月26日、第23回臨時国会の所信表明演説において、菅内閣総理大臣は「2050年までに、温室効果ガスをゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。



社長あいさつ



稲嶋セミナー

## (2) 中部電力グループの取り組み

各事業の自律的な事業運営を進めるため、2020年4月に送配電部門の法的分離に加え、販売部門についても分社化し「販売分離型の事業モデル」へと移行。それぞれが異なる市場、お客様と向き合い、自律的な取り組みを進めることによりこれまで提供してきた安定・安価なエネルギー供給をより確かなものとするとともに、新たな価値を創出することで、お客様・社会へ提供する価値の最大化を図ります。

### 中部電力グループ「ゼロエミチャレンジ2050」

私たちは、社会・お客さまとともに、エネルギーインフラの革新を通じて「脱炭素」と「安全・安定・効率性」の同時達成を目指します。



質疑応答

**(3) お届けする電気の脱炭素化**

2050年におけるエネルギー需要構造について、省エネの徹底等によりエネルギー需要が大きく減少する一方、電化の進展により電力需要が増加する想定を示しています。お客様の省エネ、電化、水素、アンモニア化及び、グリーン化等の脱炭素化に向けた問題解決と並行して、再生可能エネルギーの拡大、水素・アンモニア発電の導入及び原子力の最大限の活用により、増加する電力需要に対応しながら電源側の脱炭素化を図っていきます。

**(4) お客様と進める電化・脱炭素化  
「創る」「活かす」「減らす」**

お客様の環境経営の課題に対して、従来から継続するエネルギーを「減らす」取り組みに加え、再生可能エネルギーを「活かす」「創る」を視点に加え、中長期的に幅広く取り組んでいます。

**活かす**

再エネを活用・拡大するサービス

再エネ由来の電気をお届けし、購入電力のCO2フリー化が可能。その収益を活かして新たな再エネ電源の開発を進めます。

**創る**

工場・店舗等で再生可能エネルギーを創るサービス  
法人のお客様の屋根に太陽光パネルを設置し、発電される電気をお使いいただくサービス。

**減らす**

技術やノウハウをコアに生産性向上と省エネの実現で脱炭素社会の実現に貢献  
課題を把握し、課題解決手法の提案・技術力の提供で省エネ・生産性向上に貢献。

従来、電化が困難であった生産プロセスにも、中部電力グループであればお客様の生産ラインを革新的に改善する提案が可能です。

**おわりに**

中部電力グループでは皆様の抱える課題に対して、お客様と共に考え、取り組んでまいります。

ホームページにて改善事例を掲載しておりますので参考にしていただければ幸いです。

ミライズ ソリューション

(文責・鈴木太輔)

**懇親会**

ホールBでの懇親会は、岡田正直専務の開会の挨拶に続き、稲嶋講師の乾杯でスタートしました。

アクリル板で仕切られたテーブルでの限られた範囲の移動制限の飲食でしたが、秋の夜の歓談に花が咲き

ました。最後にアツタ起業株式会社の中根由雄社長の中締めのご挨拶で、名残を惜しみながら散会しました。



乾杯



懇親会

## 工場見学

10月13日、西尾市立中畑小学校5年生（生徒10名、引率1名）が社会科学習で来訪されました。

目的は「校区にある工場を見学して、愛知の工業生産が発展している秘密について知ることで、その魅力に気づき発信したいという思いを持てるようになる。」です。

永田規雄生産部長によるリサイクルの話の聞いたり、アルミ缶リサイクルのビデオを見たり、様々なアルミスクラップや実際のアルミ溶解作業を見て、活発な質疑応答がなされました。皆さんリサイクルの重要性を改めて認識する時間となりました。



## 社内情報

- ◎秋の恒例行事のアスカ・セミナーを皆様のご協力の下、再開することができました。
- ◎講演を引受けて下さった中部電力ミライズ㈱岡崎法人営業部の皆様には、内容の濃い資料を作成して頂きました。ありがとうございました。
- ◎コロナ禍のセミナー、懇親会の設営・運営はまだまだ制約が続きます。来年の正月の祈願会も状況に対応しながら再開の方向で計画を進めます。

## 編集後記

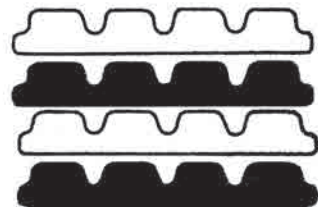
- 10月21日、外国為替が1ドル150円台に入り、日銀は再度円買い介入を実施しました。
- 10月22日、中国共産党大会が閉幕しました。習近平政権の3期目続投と幹部から共青团の排除が明確化されました。ともあれ、人民の移動制限が緩み、経済循環の早期正常化が待ち望まれます。
- 短期での首相交代は日本のお家芸かと思っておりましたが、今回の英国首相の交代には驚かされました。

## アルミ缶リサイクルング 鋳造用アルミニウム合金地金

アルミニウムそのものでは強さ、加工性などの点で不十分で、銅、シリコン、マグネシウム、亜鉛、鉄、マンガン、ニッケル等を用途に応じて添加合金しますと、非常に優れた強さ、鋳造し易さ、加工し易さ、耐熱性などが得られます。添加金属は非常に微量の場合もあり、そのため厳重な品質管理が要求されます。当社では発光分光分析装置を使用して、迅速・正確な品質管理の下で非常に優れたアルミニウム合金を作り、日本の産業の発展に寄与しています。

ISO 9001 認証取得 (KHK-ISO CENTER)

## アスカ工業株式会社



〒444-0303  
愛知県西尾市中畑町卯新田上28  
TEL <0563> 77-0500(代)  
FAX <0563> 77-0501  
<http://www.al-asuka.jp/>